

記者会見要旨

日 時：平成 25 年 4 月 17 日（水）午後 2 時 30 分～午後 3 時 10 分
場 所：東京証券会館 9 階 第 1、2 会議室
出席者：前会長、増井副会長、大久保副会長・専務理事

冒頭、増井副会長から証券戦略会議等の審議事項等の概要について、大久保副会長・専務理事から自主規制会議の審議事項等の概要について、説明が行われた後、大要次のとおり質疑応答が行われた。

（記者）

日銀の黒田総裁が「異次元緩和」の実施を決定したことについて、会長の評価をお聞かせいただきたい。

（前 会長）

大胆な金融緩和により、市場も株高・円安になった。私自身は、安倍政権の誕生と併せて日銀の国債買入れなど、様々な手法が導入されたことによる期待感で株高・円安の流れになっていると考えている。

小泉政権における郵政解散時の日経平均株価は 11,778 円から 17,563 円と 49.1%上昇しており、今回は 8,600 円台から 13,000 円台と 51%と上昇している。為替については、当時の円安の幅の倍以上の円安になっており、期待感が非常に高い。

今のところ世界各国からもアベノミクスは日本経済の再生に効果的であると評価され、日本経済の再生、デフレからの脱却と期待感が持たれている。しばらく株高・円安が続くと考えている。もちろん、中国、アメリカ、ヨーロッパなど世界各国の経済の影響により株価が上下するとは思いますが、基本的には 20 年間の円高・デフレからの脱却は始まったばかりだと思われ、更に良い市場環境になると考えている。また、日銀が様々な後押しをしてくれるという現状だという認識である。

（記者）

日本版 ISA の愛称公募は、どの程度応募があるのか。また、愛称決定後はどのような普及活動を行う予定か。

（前 会長）

現在、約 4,500 件の応募をいただいている。非常にたくさんのご応募をいただき感謝している。4 月 19 日まで募集を行っているので皆様方のご協力を宜しくお願いしたい。愛称は、4 月 30 日に選定委員会を開催し、決定する。決定した愛称は、証券業界だけでなく、銀行などの金融業界においても統一的な愛称として使用することになる。

本協会としては、3 月 1 日に税制改正法案が提出された後、3 月末に税制改正法・政省令が成立、公布されたことにより、5 月より証券会社・税務署間の運用テストなどが行われる予定であり、ISA を実際に始めるためのインフラ作りを行っていく。また、10 月からの税務署の口座開設手続き受付開始に合わせて、証券会社に対する事務マニュアルの作成、説明会の開催など普及活動を始めている。実際のスタートは来年 1 月であり、それに向けて様々な普及活動を行っていく。各証券会社と本協会が行うことは異なるかと思うが、本協会としては、国民の皆様に各証券会社での口座開設を促すための、普及活動を行っていきたいと考えている。

（記者）

資料 3－1 にある「公募増資等」の「等」は何を指すのか。

（大久保副会長・専務理事）

売出しが入っているのでそのような表現となっている。正確な定義は規則で規定されている。

（記者）

日本版 ISA の推進に向けた取組みに関して議論を行っておられるとのことだが、未公開株等詐欺のように日本版 ISA も詐欺に悪用さ

れるリスクがあると考えられるが、協会として防止策等について議論は行っているのか。状況についてお聞かせいただきたい。

（前 会長）

本来、未公開株等詐欺は詐欺グループによる詐欺行為の一つとして未公開株や社債等の話を用いているだけで、当然、証券会社に関係するものではないが、投資しようとしている人を騙す行為であるため、本協会も未公開株等詐欺を撲滅しようと力を入れている。

しかし、日本版 ISA の普及活動と未公開株等詐欺防止の活動は、別物と考えている。日本版 ISA が詐欺に悪用されるリスクについては、今後検討し、必要であれば対応を図っていきたい。

また、先ほど増井副会長から説明があった産業競争力会議で検討されたクラウド・ファンディングも未公開株等詐欺の類似として使われる可能性があり、色々と対策を考えなければならないと思う。

以 上